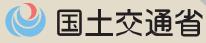
STOP!蒸中症

熱中症になる前に対策を!





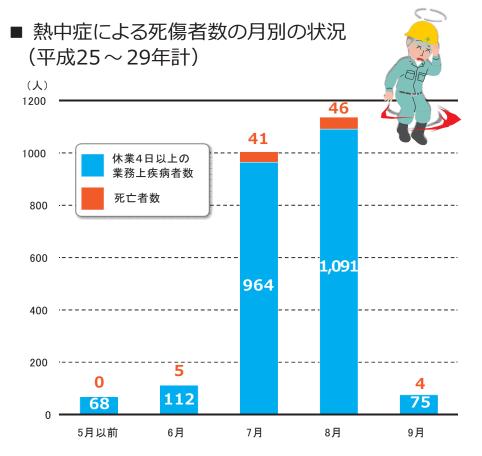


熱中症の発生状況について

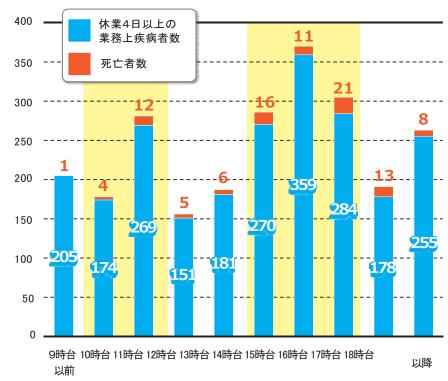
過去5年間(平成25~29年)の業種別の熱中症による死傷者をみると、建設業が最も多く、次いで製造業で多く発生しており、全体の約5割がこれらの業種で発生しています。

熱中症は6月から9月にかけて多く発生し、死亡災害では7月と8月に多く発生しています。発生時刻は、午後2時台から午後4時台までに多発していますが、朝9時台の作業開始後からも発生している事例もあり、必ずしも日中に限らず、朝

・夕刻でも発生しているので注意が必要です。



■ 熱中症による死傷者数の時間帯別の状況 (平成25~29年計)





朝礼時・現場巡回時における作業員への声かけ

●熱中症への注意喚起

- ⇒ 当日の気象予報 (天気・温度・湿度) を発表し、 特に気温や湿度の上昇が予測される日には、休憩や 水分補給の回数を増やすように指示・注意喚起
- ミスト扇風機等を設置し、 涼しい環境での朝礼
- ●朝礼時における健康状態の把握
 - → 体温計による体温確認
 - ➡ 対人で行う健康状態確認







快適な現場休憩施設及び 熱中症対策用品の設置

●冷房を完備した休憩所の設置

- → 休憩所に遮光ネットを用いた日除けテントの設置
- → 休憩所内での冷房機器、ミストシャワー付き扇風機等の設置

●熱中症対策用品の設置

- → スポットクーラーの設置
- → 休憩所内にスポーツドリンク、経口補 水液、塩飴、梅干し等の設置





体に快適な作業環境

●作業に快適な服装及び装備

- → 通気性の良いメッシュタイプのジャケットの着用
- → 日除け付ヘルメットを着用するほか、後部に 日 避けのたれ布を取り付け輻射熱を遮る
- → フルハーネス着用でも大丈夫なファン付き 空調工アコン作業服の着用

●作業時間の短縮

- → 作業の休止時間・休憩時間の確保
- ⇒ 高温多湿作業場所での連続作業時間の短縮

●暑さ指数WBGT値の測定







IoT機器を活用した健康・危機管理

- ウェアラブルデバイスを利用した 健康・危機管理
 - → ウェアラブルデバイス*を手首等に装着し、温 湿度などの周囲の環境を測定して熱中症などの 危険状態を察知し、現場責任者などへ通知。労 働災害が発生した場合も、発見・対応までの時 間が短縮できる。位置情報はGPSによる。
 - 温度・湿度
 - 気圧
 - ■脈拍
 - 身体の動き・体勢
 - ※ウェアラブルデバイスとは、腕や頭部など身体に装着して 利用する端末のこと。



熱中症対策事例

1. 声かけ



作業員の声かけ

4. IoT機器の活用



2. 対策用品の設置



日除けテント



シャワーミスト付扇風機

3. 作業環境の改善



メッシュタイプのジャケット



日除け付ヘルメット

熱中症に対する情報提供サイト



熱中症関連情報



厚生労働省

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/

bunya/kenkou_iryou/kenkou/nettyuu/index.html



熱中症から身を守るために



気象庁

https://www.jma.go.jp/jma/kishou/know/kurashi/netsu.html



熱中症予防情報サイト



環境省

http://www.wbgt.env.go.jp/



熱中症予防情報



国立研究開発法人 国立環境研究所 https://www.nies.go.jp/health/
HeatStroke/



熱中症ゼロへ



一般財団法人日本気象協会 https://www.netsuzero.jp/



熱中症情報



総務省消防庁

http://www.fdma.go.jp/neuter/topics/fieldList9 2.html

